

■日程：2024年5月22日（水）～5月25日（土）

■ボランティア参加者数：19名

■サロン実施場所および被災者の参加者数

日時	サロン実施場所	被災者の参加者数
5月23日（木）	穴水町諸橋地区 仮設住宅団地	12名
5月23日（木）	輪島市町野地区 金蔵集会所	17名
5月24日（金）	輪島市門前地区 禅の里交流館	75名
5月24日（金）	輪島市門前地区 皆月多目的集会施設	45名
5月24日（金）	輪島市門前地区 浦上公民館	38名

■被災者の声（主なもの）

- ・週1回のサロンで近所の方の健康状態や状況を知って、自分も頑張ろうと思うきっかけになる。
- ・仮設住宅に住めるようになって安心したが、物音がするとまだ怖い。この生活がしばらく続くと思うと不安になる。
- ・サロンはいろいろな人との交流があって楽しい。一人で食べるよりここで食べる方が元気がでる。
- ・17年前の震災より今回の方が恐怖を感じた。前回リフォームしたところがまた崩れてしまった。
- ・大きな半壊の判定じゃないとなかなか仮設住宅に入れてもらえない。住める状態じゃないが無理矢理寝泊りしている。地震で日常が失われた。
- ・家が壊れたので撤去したいが、家族全員の同意が必要など手続きがわずらわしく進まない。
- ・やっとデイサービスが復活したので、仕事を休まなくてもよくなった。
- ・畑の作物がイノシシのよって荒らされてしまった。レモンとミカンの栽培を行っているので、それが出来るのが楽しみ。
- ・海のごみが海外から多く流れ着いてきて大変。
- ・車がないと生活ができないので家よりも先に車を購入した。
- ・被災以前から過疎化、高齢化の問題があり、畑や農作地を譲りたくとも若者が地元にはいないのでどうしたらよいか。

■ボランティアの所感（主なもの）

- ・チラシ配りの際にボランティアへのねぎらいの言葉やサロンの開催が楽しみという声、またサロンには行けないがチラシを受け取る時にボランティアと話すと嬉しいとの声をいただいた。
- ・お寺があり、歴史のある街。地域愛を感じるお話をたくさん伺った。
- ・現状不安な部分の多くあるだろうが、住民の結束力は災害を乗り越える大きな要素だと感じた。



※北陸中日新聞（5/25）にふれあい喫茶が紹介されました。